

LAC Newsletter 国際教養コースだより No.8

Hyogo Prefectural Takarazuka Nishi Senior High School

March 9th, 2018

☆ 2月3日フランス語暗唱コンクール審査員特別賞受賞2年7組 林 美優さん



仏語コンクールへの参加は2度目で、覚える文章が長く、内容も難しくなり、表現するのに苦勞しました。特にフランス語独特のrの発音をAlex先生に何度も練習していただき、放課後毎日残って練習しました。毎日練習していると、考えなくてもすらすら口に出てくるようになりました。本番は緊張しましたが、練習のおかげでミスをせず終えることができました。大会では、上級レベルのフランス語に圧倒されましたが、悔いを残さず自分のベストを尽くすことができ良かったです。

*大会に出場する生徒は、フランス語学習歴2年以上の生徒が多く上級レベルですが、学習歴1年の生徒対象に今回努力の成果が認められました。大学でフランス語を専門的に学びたいという意欲のある人は、高校での学習歴は大きな武器になります。語学検定の資格が受験に求められることもあります。ぜひ計画的に準備してチャレンジしてください。 昨年の例を挙げると、立命館大文学部（語学環境も充実）AO入試受験資格は、英検2級、GTEC for Students 675、実用フランス語検定4級などです。

☆ 3月5日 LAC 1年生 JICA(Japan International Cooperation Agency)関西訪問



・今回、発展途上国の話を聞いて、今まで自分に知識がなかったことがわかりました。途上国の平和なしに日本の平和はないということを忘れないようにしようと思います。国際協力は、自分が一方的に支援すると思いがちですが、相互依存関係で支援した分、成果が帰ってくることを知りました。途上国や国際協力についてもう一度深く考える必要があると感じました。青年海外協力隊マレーシア派遣ボランティアの体験談では、具体的な活動内容を聞くことができました。隊員と現地スタッフの意見や考え方が違ったとき、コミュニケーションが必要不可欠になることがよくわかりました。職員が興味を持つように工夫の仕方を考え、実践し、その結果をもとに課題を見つけて解決する。この繰り返りで、現地の人との関係を構築し、自らも成長できるのだと思いました。ワークショップではセネガルの人々の考え方に少し驚きました。「助け合うのが当たり前で、みんなが幸せになることを考える」この考え方が日

本にもっと広がればいいなと思います。日本はセネガルに比べると経済的には裕福な国ですが、セネガルより劣っているところもあると気づきました。貧困＝不幸ではないことを学びました。マレーシアとセネガルの人の暮らしのワークショップに共通していたキーワードは「相手の立場になって考える」ということだったと思います。自分の固定観念にとらわれず、様々な視点から世界を見ていかなければいけないと思いました。(T)

・この学習を通じて新たな視野を広げ、国際社会の問題に興味を持つことができた。この経験は私にとって大きな前進となった。国際的に活躍されている JICA の方や協力隊の方の話聞くことができ、自分の中の「世界」のイメージが変わった。今までは日本を中心に世界のことを考えていたが、これからは途上国、先進国が共存してこそその世界だと考えることができる。そして、その世界をこれからも存続していくために何か自分自身にできることを考えながら生きていこうと思う。貧困の他にも差別問題についても興味を持った。貧困問題のきっかけの一つに女性差別が裏にあることを展示室や資料室を通して学ぶことができた。(M)

☆ 2月11日（日）兵庫県高校生英語ディベートコンテスト @神戸市外国語大学

宝塚西高チームは、1回戦は関西学院高等部と対戦、2回戦は尼崎小田高校と対戦しました。“We should abolish the Olympics.” というタイムリーな論題で、オリンピックの意義や問題について多くの資料を分析し、論理的に考えて英語で意見を発表できるように準備するのは大変な労力だったと思いますが、その過程で学んだことは絶対忘れないものになるでしょう。修学旅行が入り、準備時間が足りない中でよく頑張りました。決勝は今年も葺合高校と芦屋国際中等との対戦で、葺合高校が優勝しました。



(参加生徒の感想)

・正直なところ、準備期間はとても厳しいものでした。相手がどれくらいの量の証拠資料を持っているのか、英語のスピーキング力はどれくらいか、自分たちの立論でうまくいくのか、こうしたことが大きな不安材料になりました。本番になって初めて力量の差を痛感しましたが、反対に、レベルの高い英語を聞くことができ、良い経験になりました。(O)

・ディベートが終わりホッとしているのが正直な感想です。ディベート大会までの期間は毎日 Evidence 探しで他のことをする余裕がありませんでしたが、当日は、自分が大会までに犠牲にしてきたものより大きなものを得られました。物事を多面的に見る力、相手の主張の中から真意をくみ取る力、相手を respect しながら自分の考えを伝える力、どれも今だけでなく、自分が将来歩んでいく人生でも役に立つスキルです。そしてこのディベート大会で一番得たものは「仲間」です。お互い一つの目標に向かい努力することは、お互いに影響を与え合い、温かい場所を生むことができることを知りました。このメンバーみんなに感謝しています。(A)

・今回ディベート大会に参加して、自分の伝えたいことを論理的に伝えて、相手に納得のいくような説明の難しさを学ぶことができました。また、ディベートの練習をしていく中で、その場で日本から英語にする力も身に着けることができたと思います。大変だったけど、良い経験になりました。(A)